

CIR Insights 10

Vol.

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2019年冬号 教育調査

今回のCIR Insightsでは、「第2回 東北大学教員の教育活動に関する調査」から、学内外の改革に関する認知度の調査結果をお届けします。同調査は4年に1回の実施計画の下、2020年1月に第2回が行われたもので、担当授業での意識や行動を中心に尋ねています。第2回調査では新しい試みとして「認知度」を聞いたわけですが、多くの率直な回答をいただき、非常に興味深い結果となりました。大学入学共通テストや指定国立大学法人制度については70%以上が「知っている」のに対し、本学学生を対象としたBYOD導入や3つのポリシーの公表義務化に関しては半数以上が「聞いたことがない」と答えています。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

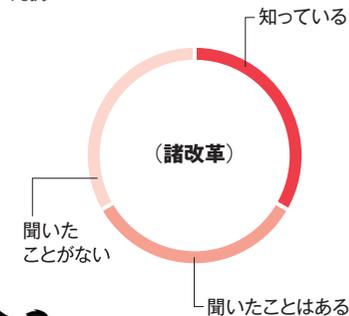
〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp



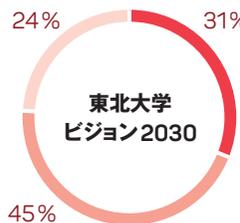
以下のグラフは諸改革に関する認知度を表したものです。色の濃い部分が多くなるほど認知度が高く、色の薄い部分が多くなるほど認知度が低いことを表しています。

回答数		
	教授	277人
	准教授	254人
	講師	44人
	助教	357人
	助手	20人
	計	952人

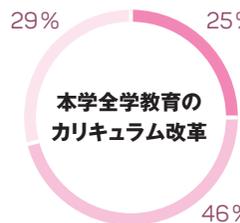
凡例



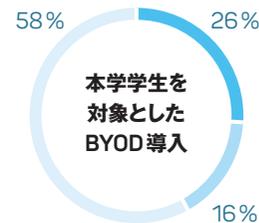
諸改革に関する認知度



2018年11月、「教育」「研究」「社会との共創」「経営革新」の4ビジョンにわたり、19の重点戦略・66の主要施策が策定され、2030年までの挑戦課題として推進されています。



高年次学生を対象とした教養教育の実施などを軸に、2022年度からの実施に向けて全学教育改革検討タスクフォースで報告書がまとめられ、総長への説明が行われました。



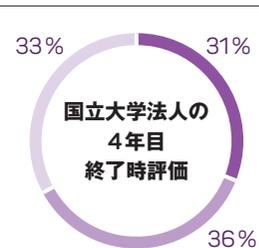
本学では、2020年度以降に入学する学生から、全員が授業へノートパソコン等を持参できる体制が整備されます。教育におけるICT活用の一層の推進が求められます。



世界大学ランキングとして、2004年開始の英国タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)等が知られ、本学は2020年版で251-300位でした。最近ではTHE日本版も登場し、2019年版で3位に位置づいています。



2017年度から、世界最高水準の教育研究活動が展開可能な国立大学法人を「指定国立大学法人」に指定し、投資や資産運用を緩和することとなりました。本学は同年6月に同指定を受けています。



6年間の中期目標期間終了時に見込まれる中期目標(特に教育研究)の達成状況に関して、4年目が終了した時点で(独)大学改革支援・学位授与機構により実施される評価です。



3つのポリシーとはディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシー(AP)のことで、2017年4月より各大学の策定・公表が義務化されています。



全国の大学生の学びの実態把握を通じた、各大学の教育改善、大学に対する社会の理解促進、今後の政策立案等への活用を目的とした調査で、2019年11~12月に試行されました。



大学入試センター試験に代わり、2021年1月から実施されます。記述式問題や英語民間試験の導入は見送られましたが、数学I・Aの試験時間や英語試験での配点などが変更される予定です。



→→→→→ 詳細は「第2回 東北大学教員の教育活動に関する調査」報告書に掲載される予定です。乞うご期待!



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます [これまでの実績]

→ 国立大学法人評価 (4年目終了時評価)

各部局における「現況調査表」作成に際し、第4回学修成果調査で収集した学生からの意見聴取等に関する基礎データを提供しました。

→ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、各々に二回発行されている報告書「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業評価アンケート実施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、毎回独自の視点を設定して様々な分析を実施し、その結果を報告しています。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

[お問い合わせ] 教育評価分析センター → → → cir@ihe.tohoku.ac.jp



2019年
3月
実施

東北大学の 教育と学修成果に関する 調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成24年度より調査開始。本学全体および各学部・研究科における学修成果がいかなる特徴を持ち、それがどのような背景に因るものであるかを中心に分析を実施。東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご利用いただける内容となっています。

[目次]

第1部 調査結果全体に関する分析

1. 「第4回東北大学の教育と学修成果に関する調査」調査概要と得られた知見
2. 学位授与方針と学修成果に関する認識の関係
3. 学修成果に影響を与える学修経験について

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料 (基礎集計表、自由記述、調査票)

[既刊]

- 第1回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2013年3月実施)
- 第2回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2015年3月実施)
- 第3回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2017年3月実施)



2018年
1月、3月
実施

東北大学の教育に関する 卒業・修了者 / 雇用者調査報告書

東北大学にとって重要なステークホルダーである「卒業・修了者」と「雇用者」の意見や評価を収集し、教育学習改善に活かすことを目的に実施。卒業・修了後5年の本学出身者を対象にした調査では、調査時点での知識・能力とそれらを獲得する上での東北大学の貢献度や、学士課程教育に対する意見等を聞いています。雇用者調査は、本学学生の採用実績を有する「雇用者」(企業)を対象に、採用する学生に期待する力や本学出身者のイメージ等を尋ねた内容となっています。

[目次]

第1部 各調査の概要と調査による知見

- ・各調査の概要
- ・本報告書の構成と調査から得られた知見・示唆

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 分析

- ・卒業生・修了生調査にみる東北大生の知識・能力について
- ・雇用者調査とその結果の概要
- ・雇用者調査
2006年調査と2018年調査の比較検討
- ・東北大学の教育に対する雇用者からの期待
—— 2006年調査と2018年調査の自由記述の内容から——

第4部 資料 (基礎(クロス)集計表、自由記述一覧、調査票)